

あ・ん

編集委員 小川 康介



理不尽を乗り越えて

ラグビー・ワールドカップ(W杯)に合わせて開設されたメリケンパーク(神戸市中央区)のファンゾーンに、「ミスターラグビー」と呼ばれた平尾誠二さんの足跡をたどる展示があった。8日に終わってしまったが、黒地に白い文字で刻まれた、亡き人の言葉が胸に刺さった。

「理不尽は人を鍛え、強くする」ラグビーは前に広がるインゴールを目指す陣取り合戦だが、前方にボールを投げてはいけないというルールがある。後ろにパスしながら前に進む。そんな世界で一時代を築いた平尾さんは、教育論や指導論を問われると「世に出れば理不尽なことだらけ。理不尽だから面白いと思わせられるか」と実感を込めた。3日、ノエビアスタジアム神戸でアイルランドーロシア戦を取材した。前半12分、アイルランドの世界的司令塔セクストン選手がインゴール中央に向かってキックパスを送

り、トライをお膳立てする。どこに転がるか予測できない楕円球を完全に制御した技術。平尾さんならどんな顔をしてたえただろう。

アイルランドは盤石だったが、その強豪に勝った日本の強さを再認識する機会にもなった。ラグビーは体格差が歴然としても、柔道やレスリングのように階級別で競わせてはくれない。小柄な日本は、身長や体重で大きく上回る大男たちと対峙しなければならぬ困難を柔軟な戦術と闘志で克服し、真っ向から優勝候補を破ってみせた。

理不尽を乗り越えた先に待つ喜びの大きさに、列島が沸いている。ファンゾーンを訪れたのは、日本の歴史的勝利から一夜明けた9月29日だった。「空から見えましたか」「あなたの精神が引き継がれていますよ」。平尾さんへの寄せ書きには、誇らしげなファンの、感謝の思いがあふれていた。

2019.10.13 神戸新聞分

世はラグビー色に染まっていますが、いろんな所へ波及している。人から感動を得る感覚を大切にしたいが、それ以上に他人の人生に何かか伝えられるそんなタイミングに多く出会いたいものです。